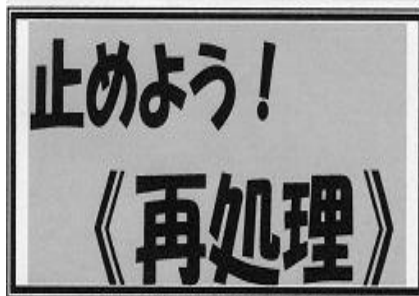


三陸の海を放射能から守る
岩手の会（略称）三陸の海・岩手の会
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理 / 岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
《本紙の全バックナンバー掲載》



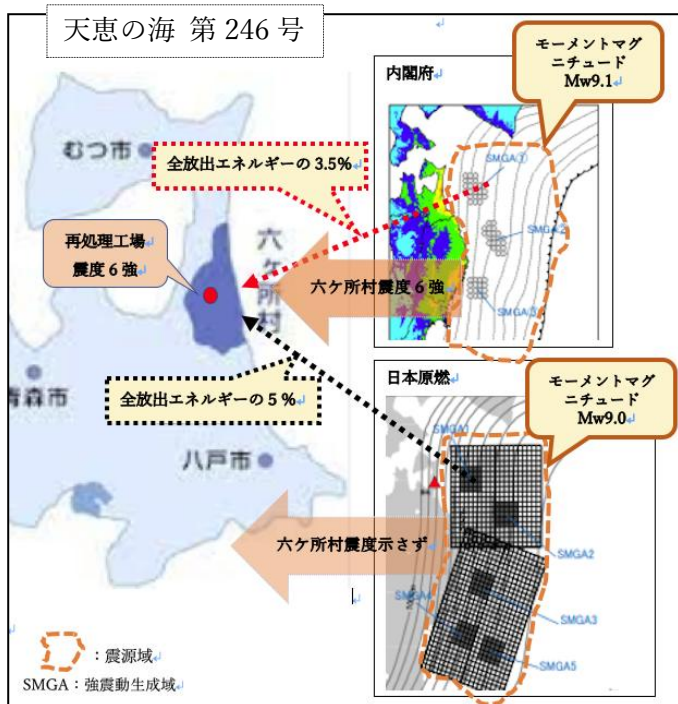
＜天恵の海＞
2025(令和 7年)
11月 13日
第 267号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

内閣府：巨大地震 六ヶ所村は震度6強 日本原燃の想定は 震度5弱の過少評価 六ヶ所再処理工場は巨大地震に耐えられない！

原燃質問書
：後半

内閣府

マグニチュード9.1→六ヶ所村地区内
830ガル～1500ガル 震度6強



原燃

マグニチュード9.0→六ヶ所再処理工場
敷地 約200ガル（震度5弱）
＊基準地震動 700ガル

質問3)内閣府想定海溝巨大地震到来時、再処理工場の施設設備の耐震について
①二〇二一年、内閣府は日本海溝プレート間巨大地震の想定をM9・1、再処理工場のある六ヶ所村は震度6強と想定しています。国交省が実測値を基に震度6強は830ガル～1500ガルと公表しています。六ヶ所再処理工場の基準地震動は700ガルですが、震度6強の地震に耐えられますか。福島原発事故では津波が来

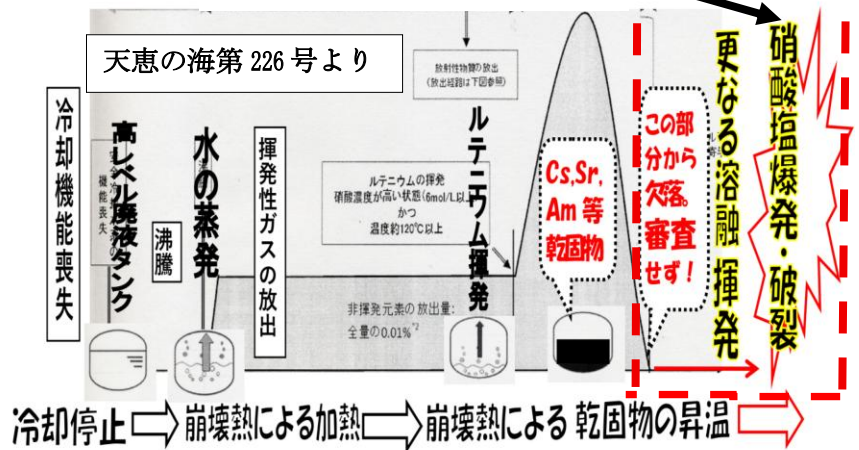
ると想定されていたのですが、対応しなかったため重大事故になりました。内閣府の海溝巨大地震の想定震度6強を評価せずに済みますその姿勢は福島事故の教訓を無視する姿勢に重なります。再度内閣府想定震度6強に再処理工場は耐えるのか、再検討するべきです。ご見解をお願い致します。

②貴社が内閣府想定Mw9・1よりエネルギーが約三割低いMw9・0を想定し想定震源から約90km離れた六ヶ所再処理工場敷地の入力地震動の応答スペクトル図を作成しました。この図では工場敷地における入力地震動の最大加速度は約200ガル（震度5弱）と読み取れます。3・11東日本大地震（Mw9・0）で震度6強を示した実測値24地点はいずれも震源から148～319km離れた地点でした。Mw9・0の震源から90km離れた六ヶ所工場敷地が約200ガルという想定は実測値と比べ明らかに過小

評価ではありませんか。（応答スペクトル図の周期0・02秒の値約200ガルが工場敷地への入力地震動とみなせます）ご見解をお願い致します。
③貴社作成の想定巨大地震時の工場敷地内の応答スペクトル（敷地内約200ガル）の作成条件や方法を示してください。Mw9・1の内閣府と同条件で再度作成し見直すべきではないでしょうか。
④貴社は内閣府の想定巨大地震（海溝プレート間地震Mw9・1六ヶ所村震度6強）に再処理工場が耐えるのかどうかについて見直し、人々がわかるよう丁寧な報告書を作成公開してください。
質問4)高レベル廃液の危険性について
①再処理規則第一条の三で、高レベル廃液の重大事故として“蒸発乾固”と定義されています。規則の制定過程でIAEAの定義“大容量液体貯槽の破裂、を削除し“蒸発乾固”とされており、IAEA文書を改

「蒸発・乾固」その後を評価せず

廃液貯槽の破裂



ざんし、定義に“蒸発乾固”を加えたのは捏造ではないですか。国民への犯罪的背信行為ではないかと原子力規制庁に訴えてきました。この定義による放射性物質の環境放出量は極端な過小になり、そのため六ヶ所再処理工場ではPAZ(予防的防護措置を準備する区域：原発から半径5km)は無し、UPZ(緊急時防護措置を準備する区域：半径5

30km)は原発よりも狭い5kmとされてしまいました。実際に起きたウラルの核惨事では“蒸発乾固”した固体物が化学爆発し貯槽が破壊され放射性物質のほとんどが環境へ大放出され核惨事と言われています。化学爆発前の“蒸発乾固”が重大事故の定義になぜなるのでしょうか。捏造をそのままにしておくことは許されないのではな

いでしょうか。UPZ、PAZはこのままでよいのですか。ご見解をお願いします。

②「高レベル廃液が冷却できなくなった場合、沸騰し“蒸発乾固”後どうなるのか」との質問に規制委員会から明確な答えがありませんでした。貴社はウラルの核惨事では350℃程度に達し、化学爆発を起こしたと推定しています。ウラルの再処理方式より有機抽出剤を大量に使用する六ヶ所再処理方式で発生した高レベル廃液の乾固物のほうがより爆発性が高まっているのではないのでしょうか。蒸発乾固後、乾固物をそのままにしておいた場合、最悪、どのような経過をたどるのか示して下さい。

③高レベル廃液製造時に使用する濃縮蒸発缶の温度計部の損傷により穴開きのまま、この減圧濃縮施設が運転されてきたようです。そのまま運転することは危険きわまりありません。この点はどうなっているのですか、ご見解をお願いします。

④不安定な高レベル廃液をガラスファイバー等に

アクティブ試験は失敗だった！ 国民を守るために 原燃は再処理からの撤退の決断を！

特別質問と要請

アクティブ試験は失敗しました。来完成的な技術で重大事故の危険があり、国民を守るため、処理から撤退すると国へ申し入れる決断の時ではありませんか。

アクティブ試験を通して六ヶ所再処理工場の技術は失敗であり、貴社はこの巨大核化学プラントを稼働する技術がないことが明らかになったのではないのでしょうか。貴社以外のどの会社が試みてもこの工場は技術的に運転できないことは明らかです。これは貴社の責任ではなく、この国の為政者の責任が第一にあります。この世界最大の地震大国にこのような未完成的な技術の核化学施設を建設する決定がそもそも間違っていました。

高レベル廃液、使用済燃料プール等に貯蔵する莫大な放射能が事故により放出されるときには、最悪この国の存在が危ぶまれる事態になります。例えば現在ある高レベル廃液貯槽の冷却ができなくなり化学爆発(臨界爆発も考えられます)したとき東北と北海道全てがチェルノブイリ基準の移住必要区域(セシウム137の貯蔵放射能から計算)になります。

このようなことが絶対にないと言い切れますか。このような超危険施設を稼働してよいのでしょうか。貴社から国へ「再処理工場は危険な放射能を大量に扱う巨大核化学プラントであるにもかかわらず、アクティブ試験を通して技術的・保安的に未完成的な技術であることがわかりました。」「この工場で重大事故が起きる可能性があり、事故を起こすとあまりに国民へのリスクが大きき国民を守るためにも道義的にも運転できません」と、再処理から撤退を申し入れる決断の時ではないのでしょうか。ご見解をお願いします。以上です。

含浸固化させ(ダイナマイトのように)少しでも安定化させ、国民のリス

クを軽減するよう技術を検討すべきだと考えますがご検討お願いです。きませんか。